



「両親と牛と共に」



肉用牛経営：

松代町筋平 高橋 かわり氏

畜産を止めようと思った事があった。これから肉専用・繁殖経営に従事していくのか？普通の女の子として生活するのか？と悩んだからである。私も普通の女の子である。「オシャレ」も「恋」もしたい。将来結婚して子供を育てられるのだろうか？と思うと不安になる。何故ならこんな山奥で毎日牛と格闘している娘の所へ誰が婿に来るといのか？そんな奇様な男性はいるのだろうか？など冗談話のようでも当事者である私には大きな問題の一つだ。小さい頃から父と母の背中を見て育った私の将来というのは、当たり前のように牛を飼うのだろうかと思っていた。更に両親を超える良牛を生産してみたいとも思っていた。だが、今までに父と母はどれだけの難解な問題やトラブルと遭遇してきたのだろうか。私は二人を見ているようで何も解っていなかったのではないだろうかと反問している。

私が就農し家を継ぐという事は、これから先に訪れる問題を共に考え乗り越えていかなければならない。少しでも二人の役に立てばと言う考えがいつも頭の隅に置いてある。畜産に従事する事で失うものが無い訳でもない。もしかしたら結婚もしないかもしれないし、一生スカートを着る事も無いかもしれない。

しかし、私は牛しか出来ないのだなあと思う。例え失うものがあろうとも、仕事で疲れている時に「頭を撫でて」と突き出す牛を見れば癒され、世話をしながらの一つ一つの勉強が身につく嬉しさ、自分の成長を夢見て肉用牛経営を自立・発展させなければならぬと言う誇りと責任か。それは今の私にとってなくてはならないものである。小さな事でもいつも挫けそうになるけど、私はこれからも「両親と牛と共に」を続けて行こうと思う。



「夢追い人」



酪農経営：

和島村大字根小屋 加勢 アヤ子氏

我が家は、主人が農業高校を卒業して酪農を始めた初代酪農家です。初めは自宅の納屋で飼育していたそうですが、昭和50年に現在の場所に牛舎を建て一人で頑張ってきました。その後、生産調整、乳価の引き下げと酪農情勢が厳しくなった昭和57年に結婚、私は酪農家の母ちゃんになりました。私は酪農の仕事が好きです。他の仕事と違って連休を取るとは出来ませんが、毎日の時間は朝晩の牛舎作業以外は自分のやりくりで何とかできます。毎日を「自分の時間」に合わせてマイペースで生活できる幸せは何物にも代えがたい宝物です。

9年前に、建設期間を一年半も掛けログハウスを建てました。子供達も大きくなり家が手狭になり、「どうせ建てるなら毎日をリゾート生活にしていればいい。」と思い着手しました。元来、大工仕事得意な主人と、建設会社で仕事をしていた義父、趣味でログハウスの建築経験のある設備屋さんなど多くの人々の協力を得ながら完成することができました。これも時間のやりくりできる酪農家だから出来た事だと思っています。

今、私達はホルスタイン種の他にガンジー種の牛も飼っています。平成9年12月に生後1ヶ月のガンジー種の牛を入手し、現在は3頭を搾乳しています。今年の7月には5頭搾乳できる様になります。ジャージー種やブラウンスイス種などは一般に知られていると思いますがガンジー牛と言うと「インドの牛ですか？」と尋ねられるほど、ほとんど知られていません。英国原産の牛で、特権階級の人や病人などが飲むことが出来る特別な牛乳だったそうです。乳量はとても少なく、現在3頭搾乳して日量50kgぐらいしか出ません。乳質はビタミンA、カルシウム、タンパク質の量が多く、全固形成分は15%以上です。それでいて、とても「さらっと」しているのです。一番驚いた事は、牛乳を飲むと下痢をする人に飲んでもらっても、皆さん下痢をしなかったと言うことです。私はこの牛でいつか飲用向けに販売する事を夢見て・・・次のステップの思いを巡らせております。